

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東京大学	整 理 番 号	1 9 0 5
プログラム名 称	先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	大澤 裕	プログラムコーディネーター	田村 善之
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術革新に伴い一義的な解決が困難な課題が不断に発生している現代、こうしたビジネス上の諸課題の解決をもたらし得る「先端ビジネスロー」という法学主導による学際的に融合した学問的手法を打ち立てるとともに、その担い手となる高度な「知のプロフェッショナル」を育成することを目的としたプログラムである。 ・平成 29 年から試行しているプログラムであることもあり、予定した定員を超える履修生が確保できている。また連携先機関等から外部ゲスト講師を招聘し、ビジネスの現場の問題や意識を共有する連携先企業によるセミナー等も着実に行われている。 ・コロナ禍において、海外インターンシップが延期となっているものの、授業全般がオンラインに移行できている。海外インターンシップの代替として、国外の大学等が実施するオンライン・セミナーの受講を推奨しており各種費用を助成している。 ・プログラムに参加している学生の目的意識は高く、プログラムに対する満足度も高い。なかでも、先端ビジネスロー基礎セミナー・発展セミナーに関して、連携先企業等からの外部講師招聘により、最先端の知見や実務的課題に接することについての学生の評価は高い。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京大学ビジョン 2020」に基づき、国際卓越大学院教育プログラム（WINGS）を創設し、未来社会協創推進本部（FSI）の下、本プログラムは「文系主導の大学院改革」と位置付けられ、全 18 プログラムを先導する役割がトップダウンで構築されていること、各プログラムのグッドプラクティスを全学展開するなどの方針が示されており、着実な進捗を期待したい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学際的融合によるビジネスローの確立という目的の達成に向け、学生の多様性をどのように確保していくのかが課題として挙げられる。法学政治学研究科以外の学生は 1 名に留まっていることから、他研究科など広い分野からの学生の確保が必要である。また、学生の大半が限られた国からの留学生となっている。社会科学分野の大学院は全体として留学生が多いという構造的な問題もあるため、多様な文化圏の学生を広い分野から確保することが必要である。 ・文理融合をうたっているので、他研究科の教員との連携も強めていくことが求められる。 ・連携先機関によるセミナー等も含めて、カリキュラムをより体系的にする必要がある。 ・本プログラムを大学院改革にどのようにつなげていくかという点について、プログラムとしての具体策が明らかになっていない。例えば本プログラムで生まれたグッドプラクティスをどのように全学に拡げていくのかといった計画やプログラムの周知、広報についても検討されたい。 ・多様な人材を獲得するためにも、ビジネスローの世界的拠点となっていくことが期待される。その形成のためにも、研究・教育面で海外大学との更なる連携強化が必要で 			

ある。米国、中国、韓国、台湾だけでなく、欧州の大学との連携強化も検討されたい。

- コロナ禍においてオンライン授業（ハイブリッド授業）が進められているが、学生同士の横断的なコミュニケーションや知見の共有ができる場の提供や仕組みの導入を検討されたい。